

令和6年度 研修計画

I 研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた教師の支援とICTの効果的な活用

※学校教育目標：「地域と共に、ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生き抜く宇佐川っ子の育成」

II 主題設定の理由

人生100年時代の到来を迎え、Society5.0の実現に向けた技術革新による社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全てのものの生き方に影響するものとなっている。

このような状況を踏まえ、中央教育審議会令和3年答申では、今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であり、そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められると提言された。

先述のような社会の変化は、情報化の急激な進展により、本校の位置する中山間部においても例外とは言えず、児童一人一人においても社会の変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間だからこそ感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていく能力が求められる。

また、本校の児童3名は、何事も明るく素直に取り組むことができるよさを素地としてもっている。学習では、極小規模校の特性を生かして、一人一人のペースに応じて学習を進めたり、地域での様々な学習に取り組んだりすることができている。また、低学年の頃から異学年交流に親しんでおり、互いを思いやり協力しながら学校生活を送っている。しかしながら、同学年の同級生が少ないことや狭いコミュニティで生活する中で自分の思ったことや感じたことを多様な他者と伝え合う機会や体験が少ないため、自分の意見や考えを明確にすることや、他者に分かりやすく伝えることに課題がある。

そこで本校では、昨年度まで「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた教師の支援のあり方とICTの効果的な活用」を研究主題とし、児童一人一人の実態に応じた学びや、少人数ながら対話的学習を含め協働的な学びを実現するための教師の支援のあり方について研究を重ねてきた。研究の中で、個別最適な学びの実現に向けたアプローチにおいては、充実したICT機器や学びに特化したアプリケーションの活用によって児童一人一人の実態に合わせた支援が有効であった。協働的な学びへのアプローチにおいては、地域の人材を活用したり、他校と交流したりすることで他者と問題解決する場を設定することが有効であった。また、リモートで授業や交流会を行ったり、考えたことを発表したりする場面などでもICTの活用が大変効果的であった。

それを踏まえ今年度は、前年度の取り組みを土台に、取り組みに磨きをかけることで、「個別最適な学び」と、極小規模校の課題である「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていく。その中で、本校の児童の課題となっている自分の意見や考えを明確にしたり、伝えたりする力の育成をめざしたい。

III 研究の進め方

(1) 研究仮説（日常の学びにおいて）

① 個別最適な学びの実現のために

ア 各教科の各単元において、全国学力・学習状況調査及び県学力定着状況確認問題の確実な分析評価に

よって児童一人一人の着実な学力の向上を図ることができるだろう。

イ その際に、教師が児童の個性・趣味・関心を生かした適切な課題設定への支援をすれば、学びへの意欲がより高まり、児童の深い学びに結びつくだろう。

ウ 個別の課題解決の手段として、うさまる思考ツールの活用を促せば課題解決への個々の思考が容易になるだろう。

エ ICTを活用したドリル練習の推奨により、児童の実態に対して最適な学びが可能となり、学力の向上に資することができるだろう。

② 協働的な学びの実現のために

ア 個別の学びの過程での児童同士の関わりや、解決した児童個々の課題の子ども同士での交流による価値付けにより、児童の深い学びに結びつくだろう。

イ 個別の学びで提示するうさまる思考ツールを言語化し、日常生活の中で活用すれば、協働した学びがより円滑なものとなるだろう。

ウ ICTを利用して図や写真、動画などを活用して自分の意見や考えをまとめたり説明したりすることで、より伝えやすくなり学習レベルを上げられるだろう。

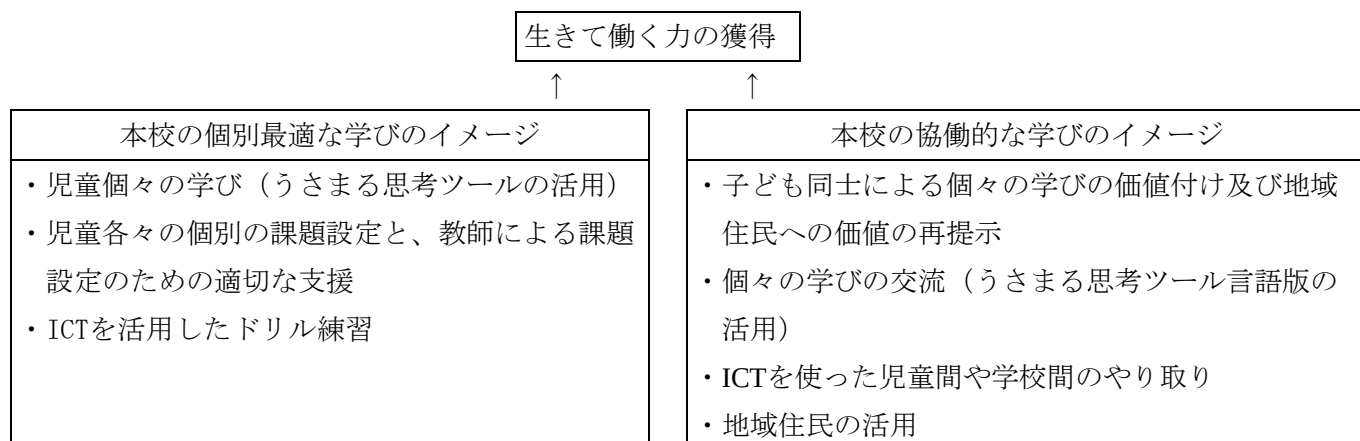
エ ICTを利用して空間的・時間的制約を緩和することによって、遠隔にある学校の児童や専門家と交流することが可能となり、児童の学びの機会が増えるだろう。

オ 地域の人との関わりを生み出す環境整備が、協働的な学びの手段となり、児童のより深い学びに結びつくだろう。

【うさまる思考ツール（思考力・判断力・表現力に係る「考えるための10の手法」）】

個別の課題解決のためのツールとして	ツールの言語版（協働的な学びの際に活用する例）
① 順序づける	まず、次に、それから、最後に
② 比較する	〇〇と〇〇を比べると
③ 分類する	仲間分けすると
④ 関連づける	〇〇と〇〇を結びつけると
⑤ 多面的に見る、多角的に見る	別の言い方では 筆者は 〇〇さんの意見によれば
⑥ 理由づける（原因や根拠を見つける）	どうしてそう考えたのかと言うと
⑦ 見通す（結果を予想する）	〇〇だと予想しました
⑧ 具体化する（個別化する、分解する）	例えば こんな場合は
⑨ 抽象化する（般化する、統合する）	これらのことから、〇〇だと言えます
⑩ 構造化する	図に表すと 表に表すと

（学びのイメージ）



(2) 研究の具体 (日常の学びの中で)

(1) 学びに向かう力・人間性等の涵養 (学びを人生や社会に生かそうとすること)	・興味・関心のある課題設定 (教科固有の見方・考え方の共有) ・個に応じた課題設定の支援 ・個に応じたつまづきへの対応 (スタディーログの活用) ・ICTを活用した一人学びの充実
(2) 思考力・判断力・表現力等の育成 (未知の状況にも対応できるように)	・意見や考えの多様性への出会い (他の児童や教師との意見交流) ・うさまる思考ツールの活用による課題解決の経験の積み重ね (思考の言語化) ・プログラミング的思考による試行錯誤 ・一人学びの保障と充実 ・ICTの活用や地域の人との関わりによる協働的な学びの充実
(3) 知識及び技能の習得及び概念化 (生きて働くものへの深化・統合)	・朝学習やSDタイムによる読解力や基本的計算の力等の基礎学力の獲得 ・辞書、アプリの活用による語彙 (含むローマ字) の定着 ・横断的総合的な諸課題の解決に向けた学びの時間による「取得した知識・技能」の概念化

IV 研修計画

月	日	校内研修	その他研修等	研 修 内 容 等	
4	17	第 1 回		○研究主題決定及び研修年間計画承認 ○指導案形式確認	網 紀 保 持 研 修 会
5	20		錦中校区小中一貫教育合同研修会 (リモート)		
	22	第 2 回		○全学調の振り返りと今後の取り組みについて	
6	5	第 3 回		○特別支援教育研修会	
	19	第 4 回		○研究授業 1 指導案検討会	
7	3	第 5 回		○研究授業 1 授業検討会	
7	29		錦中校区小中一貫教育合同研修会 (へき地複式研修会)		
9	18	第 6 回		○各種研修会復伝	
10	16	第 7 回		○研究授業 2 指導案検討会	
11	13		へき地・複式研究発表会		
11	27	第 8 回		○研究授業 2 授業検討会	会
1	15	第 9 回		○今年度の成果と課題 ○来年度の研究主題について	
2	5	第 10 回		○来年度の学力向上プランについて ○今年度の各種全体計画・年間指導計画等見直し	

※授業研究は5校時を予定しているが、水曜日はALT 来校日のため5校時を変更しなくてはならない。

兼務養護教諭に来ていただけると5校時に授業ができるため、本務校の錦中学校と要相談。